



学振特別研究員 申請書をどう書くか

申請書は早めに入念な準備を！

アカデミック・キャリアを志向する大学院生にとって、毎年4月は、日本学術振興会特別研究員の申請書作成の時期です。採用を勝ち取る申請書を完成させるためには、なにを理解しておけばよいのでしょうか。なにに気をつけて、どのような工夫をして書けばよいのでしょうか。本講習会では、現役の特別研究員と審査委員経験のある本学教員による講演と質疑応答をとおして、申請書作成の「ノウハウ」を共有します。

奮ってご参加ください。

- 対象者 女性本学大学院生・ポスドク（研究科、課程を問いません）
男性も参加可
- 日時・場所 **3月27日（金）14:30-17:00 @第1講義棟307番教室**
- 参加申込先 キャリア支援室大学院部門（宮澤） miyazawa.kiyomi@dm.hit-u.ac.jp

登壇者

赤嶺 淳 氏(社会学研究科教授)

2012年8月から2014年7月末まで日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員(領域:総合人文社会)。専門分野は、東南アジア地域研究・海域世界論、フィールドワーク教育論。『ナマコを歩く——現場から考える生物多様性と文化多様性』(新泉社、2010)ほか、著書・論文多数。

加藤 隼人 氏(経済学研究科博士後期課程、現DC1)

2013-15年度DC1。申請の領域・分科・細目は、社会科学・経済学・応用経済学。学振での研究課題は「集積経済下における租税競争について」。

佐野 彩 氏(言語社会研究科博士後期課程、現DC2)

2013-14年度DC2。申請の領域・分科・細目は人文学・言語学・言語学。学振での研究課題は「危機言語の維持・再活性化と言語名、言語意識—「フランコプロヴァンス語」を巡って」。

牧田 義也 氏(現PD)

2012年社会学研究科博士後期課程単位修得退学。2009-11年度DC1、2012-14年度PD。申請の領域・分科・細目は人文学・史学・西洋史。学振での研究課題は「20世紀初頭アメリカ合衆国の社会保障制度と医療思想の国際連関」。